

参考文献リスト

(1) 伊豆半島とその周辺の地球科学に関する主な書籍

- 藤岡換太郎・有馬 眞 (2004) : 伊豆・小笠原弧の衝突—海から生まれた神奈川. 有隣新書, 248 p.
- 藤枝孝善 (2001) : 伊豆の地形がわかる本. 非売品, 302 p.
- 星野通平・青木 斌 (1972) : 伊豆半島. 東海大学出版会, 415 p.
- 石橋克彦 (1994) : 大地動乱の時代—地震学者は警告する—. 岩波書店, 234p.
- 伊東市史編さん委員会 (2009) : 図説伊東の歴史. 伊東市教育委員会, 261 p.
- 神奈川県立博物館 (1991) : 南の海からきた丹沢—プレートテクトニクスの不思議. 有隣新書, 226 p.
- 小山真人 (2009) : 火山がつくった伊東の風景—伊豆東部火山群 (北東部) の 2 万 5000 分の 1 地質図—. 伊豆新聞社.
- 小山真人 (2010) : 伊豆の大地の物語. 静岡新聞社, 303 p.
- 小山真人 (2010) : 火山がつくった天城の風景—伊豆東部火山群 (南西部) のジオマップ—. 伊豆新聞社.
- 小山真人 (2012) : 火山がつくった西伊豆の風景—伊豆半島南西部のジオマップ—. 伊豆新聞社
- 静岡県地学会 (1996) : 駿東豆 大地見てあるき. 黒船出版, 291p
- 日本地質学会 (2006) : 日本地方地質誌 (4) 中部地方. 朝倉書店, 564 p.
- NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク (2010) : しずおか自然史. 静岡新聞社, 278 p.
- 沼津市明治史料館 (2004) : 企画展図録「天地鳴動—沼津と噴火・地震・津波—」. 沼津市明治史料館, 42p.
- 静岡新聞編集部 (1991) : 地球のシグナル: 1989. 7. 13 伊東沖海底噴火. 静岡新聞社, 256 p.
- 高橋正樹・小林哲夫 (1998) : フィールドガイド日本の火山 (2) 関東・甲信越の火山 II. 築地書館, 158p.

(2) 伊豆半島とその周辺の地球科学に関する主な論文集・雑誌特集

- 地学雑誌, 第 99 巻, no. 2 「1989 年 7 月伊東沖海底噴火」, 1990.
- 地学雑誌, 第 100 巻, no. 4 「伊豆・小笠原弧とフィリピン海」, 1993.
- 地学雑誌, 第 102 巻, no. 4 「神奈川県西部地震」, 1993.
- 地学雑誌, 第 103 巻, no. 5 「火山活動と地殻応力場」, 1994.
- 地学雑誌, 第 111 巻, no. 2 「地震・火山噴火活動の相関とトリガリング」, 2002.
- 第四紀研究, 第 23 巻, no. 2 「南部フォッサマグナ・フィリピン海プレート北縁のネオテクトニクス」, 日本第四紀学会, 1984.
- 第四紀研究, 第 38 巻, no. 6 「相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス」, 日本第四紀学会, 1999.
- 月刊地球 1980 年 2 月号, 特集「伊豆半島のテクトニクス」, 海洋出版.
- 月刊地球 1984 年 3 月号, 特集「丹那断層」, 海洋出版.
- 月刊地球 1986 年 10 月号, 特集「南部フォッサマグナ—その衝突現象—」, 海洋出版.
- 月刊地球 1991 年 2 月号, 特集「最近の伊豆半島の地殻活動」, 海洋出版.
- 月刊地球号外, no. 57 「伊豆の衝突と神奈川県西部のテクトニクス」, 海洋出版, 2007.
- 平成元年度災害対策総合推進調整費報告書「伊豆半島東方沖の群発地震及び海底火山噴火に関する調査」, 気象庁, 1990.
- Journal of Physics of the Earth, vol. 39, no. 1, Special issue: Seismic and volcanic activity in and around the Izu Peninsula and its tectonic implications, 1991.
- 広域地質構造調査報告書「伊豆地域」, 資源エネルギー庁, 1987.

Modern Geology, vol. 14, no. 1/2, Special issue: Collision tectonics in the South Fossa Magna, central Japan, 1989.

(3) 伊豆半島とその周辺の地球科学に関する主な研究論文

- 荒牧重雄・葉室和親 (1977) : 東伊豆単成火山群の地質-1975-1977 中伊豆の異常地殻活動に関連して-, 地震研究所彙報, 52, 235-278.
- 有馬 真・樋口将士・早津昭男 (1990) : 蛇石火山岩類の鉱物組成と K-Ar 年代. 横浜国大教育学部理科教育実習施設研報, 6, 71-80.
- 浅井大輔・今村文彦・首藤伸夫・高橋智幸 (1998) : 伊豆半島入間における安政東海地震津波の波高と土砂移動. 海岸工学論文集, 45, 371-375.
- Cashman, K. V., and Fiske, R. S. (1991): Fallout of pyroclastic debris from submarine volcanic eruptions, *Science*, 253, 275-280.
- 檀原 毅 (1980) : 伊豆半島北東部の異常隆起について. 静大地球科学研報, 5, 1-15.
- 遠藤 恵・小山真人 (2009) : 自然現象記録媒体としての静岡県沼津の中近世史料『大平年代記』の特性分析. 歴史地震, no. 24, 121-128.
- 藤原 治・平川一臣・阿部恒平・入月俊明 (2009) : 伊豆半島南端の入間に伝承された 1854 年安政東海地震による津波堆積物の掘削調査. 歴史地震, no. 24, 1-6.
- 後藤 潔・荒井章司, 1986, 伊豆半島, 南崎火山のネフェリン・ベイサナイトについて, 地質学雑誌, 92, 307-310. 早川由紀夫・小山真人 (1992) : 東伊豆単成火山地域の噴火史 1:0~32ka. 火山, 37, 167-181.
- 葉室和親 (1978) : 大室山火山群の地質, 地質学雑誌, 84, 433-444.
- Hamuro, K. (1985): Petrology of the Higashi-Izu Monogenetic Volcano Group, *Bull. Earthq. Res., Univ. Tokyo*, 60, 335-400.
- 葉室和親・荒牧重雄・加賀美英雄・藤岡換太郎 (1980) : 東伊豆沖海底火山群-その 1-. 地震研究所彙報, 55, 259-297.
- 葉室和親・荒牧重雄・藤岡換太郎・石井輝秋・田中武男・宇都浩三 (1983) : 東伊豆沖海底火山群 -その 2- および伊豆諸島近海海底火山. 東大地震研彙報, 58, 527-557.
- Hasebe, N., Fukutani, A., Sudo, M., and Tagami, T. (2001): Transition of eruptive style in an arc-arc collision zone: K-Ar dating of Quaternary monogenetic and polygenetic volcanoes in the Higashi-Izu region, Izu peninsula, Japan. *Bull. Volcanol.*, 63, 377-386.
- Hirooka, K., Takahashi, T., Sakai, H. and Nakajima, T. (1985): Paleomagnetic evidence of the northward drift of the Izu Peninsula, Central Japan, in *Formation of Active Ocean Margins* (eds. N. Nasu et al.), TERRAPUB, Tokyo, 775-787
- 星野一男・橋本知昌・松田時彦 (1978) : 伊豆半島活断層図. 構造図 4, 地質調査所.
- Huchon, P., and Kitazato, H. (1984): Collision of the Izu block with central Japan during the Quaternary and geological evolution of the Ashigara area, *Tectonophys.*, 110, 201-210.
- 飯島 東・岩生周一 (1970) : 伊豆宇久須珪石鉱床周辺の地質. 地質学雑誌, 76, 591-604.
- 石橋克彦 (1988) : "神奈川県西部地震" と地震予知 I および II. 科学, 58, 537-547, 771-780.
- 石橋克彦 (1999) : 史料からみた東海・南海巨大地震 -1. 14 世紀前半までのまとめ-. 地学雑誌, 108, 399-423.

- 石橋克彦・太田陽子・松田時彦（1982）：相模湾西部，初島の完新世海成段丘と地殻上下変動．地震，35，195-212.
- Ito, T., Kano, K., Uesugi, Y., Kosaka, K., and Chiba, T. (1989): Tectonic evolution along the northernmost border of the Philippine Sea plate since about 1 Ma. *Tectonophys.*, 160, 305-326.
- 及川輝樹・石塚 治（2011）：熱海地域の地質．産業技術総合研究所
- 叶内敦子・田原 豊・中村 純・杉原重夫（1989）：静岡県伊東市一碧湖（沼池）におけるボーリング・コアの層序と花粉分析．第四紀研究，28，27-34.
- 狩野謙一（1983）：安山岩質海底火山の浅部構造-伊豆半島南端部の新第三系白浜層群に見られる例-．静岡大地球科学研報，no. 8，9-37.
- Kano, K. (1989): Interactions between andesitic magma and poorly consolidated sediments: examples in the Neogene Shirahama Group, South Izu, Japan. *J. Volcanol. Geotherm. Res.*, 37, 59-75.
- 狩野謙一・上杉 陽・伊藤谷生・千葉達朗・米澤 宏・染野 誠（1984）：丹沢南部・大磯丘陵における中期更新世以降の断層活動．第四紀研究，23，137-143.
- 狩野謙一・染野 誠・上杉 陽・伊藤谷生（1988）：足柄地域北西部における中期更新世以降の断層活動．静岡大学地球科学研究報告，14，57-83.
- Kikawa, E., Koyama, M., and Kinoshita, H. (1989): Paleomagnetism of Quaternary volcanics in the Izu Peninsula and adjacent areas, Japan, and its tectonic significance. *J. Geomag. Geoelectr.*, 41, 175-201.
- 菊地康次・高橋正樹（2004）：東伊豆単成火山群同時期噴出火山列の岩石学．日大文理自然科学研紀要，39，217-246.
- 木村治夫（2006）：伊豆半島北東部における活断層システムと真鶴マイクロプレートの運動．月刊地球号外，no. 54，142-148.
- 北村 信・高柳洋吉・増田孝一郎・早坂祥三・三井 忍・菅原 健・高橋邦夫（1969）：伊豆半島の地質学的諸問題，東北大地質古生物研報，no. 68，19-31.
- Kitazato, H. (2006): Paleogeographic changes in central Honshu, Japan, during the late Cenozoic in relation to the collision of the Izu-Ogasawara Arc with the Honshu Arc. *Island Arc*, 6, 144-157.
- 小林 淳・小山真人（1996）：箱根火山西麓～南麓地域のテフラ層序と火山噴火史．地学雑誌，105，431-447.
- Koyama, M. (1983): Paleomagnetic evidence for northward drift and local deformations of the Matsuzaki area, Izu Peninsula, *Rock Mag. Paleogeophys.*, vol. 10, 61-68, 1983.
- 小山真人（1982）：伊豆半島北東部中伊豆町-伊東市地域の層序．静岡大地球科学研報，no. 7，61-85.
- 小山真人（1986）：伊豆半島の地史と足柄・大磯地域の更新世．月刊地球，vol. 8，no. 12，743-752.
- 小山真人（1988）：伊豆半島の過去と現在-学術ボーリングから何がわかるか-．陸上学術ボーリング候補地集 I，荒牧重雄・新妻信明（編），陸上学術ボーリングワーキンググループ，静岡，pp. 1-32.
- Koyama, M. (1989): Paleomagnetic studies in the South Fossa Magna and adjacent areas. *Modern Geol.*, 14, 69-86.
- 小山真人（1991）：古地磁気から見たフィリピン海の構造発達史．地学雑誌，100，628-641.
- 小山真人（1993）：伊豆半島の火山とテクトニクス．科学，63，312-321.
- 小山真人（1994）：伊豆・小笠原火山弧北端部における現在および第四紀後期のテクトニクス．地学雑誌，103，576-590.
- 小山真人（1995）：西相模湾断裂の再検討と相模湾北西部の地震テクトニクス．地学雑誌，104，45-68.

- 小山真人 (1999) : 文献史料にもとづく歴史時代の伊豆半島東方沖群発地震史と東伊豆単成火山地域の火山活動史. 第四紀研究, 38, 435-446.
- 小山真人 (2002) : 火山で生じる異常現象と近隣地域で起きる大地震の関連性—その事例とメカニズムにかんするレビュー—. 地学雑誌, 111, 222-232.
- 小山真人 (2009) : 火山がつくった伊東の風景—市民と観光客のための伊豆東部火山群 2 万 5000 分の 1 地質図. 日本地球惑星科学連合 2009 年大会, A003-P010.
- 小山真人 (2010) : 伊豆東部火山群 (東伊豆単成火山地域) の分布・噴火史の再検討. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, SVC063-27.
- 小山真人・新妻信明 (1980) : 伊豆半島新生界地層名辞典. 静岡大地球科学研報, no.5, 37-120.
- 小山真人・新妻信明 (1982) : 伊豆半島西部, 松崎地域の古地磁気. 国立科学博物館専報, no.15, 15-24.
- Koyama, M., and Kitazato, H. (1989): Paleomagnetic evidence for Pleistocene clockwise rotation in the Oiso Hills: A possible record of interaction between the Philippine Sea plate and northeast Japan, In *Deep Structure and Past Kinematics of Accreted Terranes*, (ed. J. W. Hillhouse), Geophys. Monogr., 50, American Geophysical Union, Washington, pp.249-265.
- Koyama, M., and Umino, S. (1991): Why does the Higashi-Izu monogenetic volcano group exist in the Izu Peninsula? Relationships between late Quaternary volcanism and tectonics in the northern tip of the Izu-Bonin arc. *J. Phys. Earth*, 39, 391-420.
- Umino, S., Kato, M., and Koyama, M. (1991): Diversity of parent magmas of Higashi-Izu monogenetic volcano group. *J. Phys. Earth*, 39, 371-389.
- 小山真人・新妻信明・狩野謙一・高木圭介・内村竜一・吉田智治・唐沢 譲・田邊裕高 (1992) : 駿河トラフ伊豆側斜面の地質とテクトニクス—「しんかい 2000」第 579 潜航の成果—. 海洋科学技術センター試験研究報告, 第 8 回「しんかい」研究シンポジウム特集, 145-161.
- 小山真人・早川由紀夫・新井房夫 (1995) : 東伊豆単成火山地域の噴火史 2 : 主として 32ka 以前の火山について. 火山, 40, 191-209.
- 古谷野 裕・早川由紀夫 (1996) : およそ 5000 年前に東伊豆単成火山地域で起こった大室山噴火の推移と継続時間. 地学雑誌, 105, 475-484.
- 熊木洋太 (1999) : 相模湾周辺の完新世海成段丘と地震テクトニクス. 第四紀研究, 38, 525-531.
- 久野 久 (1936) : 最近の地質時代に於ける丹那断層の運動に就いて. 地理学評論, 12, 18-32.
- 久野 久 (1952) : 7 万 5 千分の 1 地質図幅“熱海”および説明書. 地質調査所.
- Kuno, H. (1954): Geology and Petrology fo Omuro-yama Volcano Group, North Izu, J. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Ser., 9, 241-265.
- 久野 久 (1968) : 水中自破砕溶岩, 火山, 13, 123-130.
- 久野 久 (1970) : 5 万分の 1 地質図幅“伊東”, 地質調査所.
- 倉沢 一 (1959) : 伊豆・天城火山群の岩石学および化学的性質, 地球科学, 44, 1-18.
- 倉沢 一・道野 郁 (1976) : 伊豆半島西・南部地域火山岩類の岩石学および化学的性質. 火山, 21, 11-29.
- 松原彰子 (1989) : 完新世における砂州地形の発達過程 —駿河湾沿岸低地を例として—. 地理学評論, 62 (Ser. A), 151-174.
- Matsuda, T. (1978): Collision of the Izu-Bonin arc with central Honshu: Cenozoic tectonics of the Fossa Magna, Japan. *J. Phys. Earth*, suppl. 26, S409-S422.

- 松丸国照・松尾康弘・林 明 (1981) : 伊豆半島からの後期中新世レピドシクリナおよび浮遊性有孔虫. 国立科学博専報, no. 14, 25-32.
- 松本 良・片山哲哉・飯島 東 (1985) : 伊豆半島南部下田周辺の地質の再検討-堆積盆の変遷, 火成活動と熱水変質作用-, 地質学雑誌, 91, 43-63.
- 松島義章 (1999) : 完新世海成堆積物からみた相模湾沿岸地域の地形変動. 第四紀研究, 38, 503-514.
- 宮島 宏 (1990) : 東伊豆単成火山群の岩石学-捕獲結晶の意義と噴出物の時空的变化-, 岩石鉱物鉱床学会誌, 85, 315-336.
- Nakamura, K., Shimazaki, K., and Yonekura, N. (1984): Subduction, bending, and exhumation. Present and Quaternary tectonics of the northern border of the Philippine Sea plate. *Bull. Soc. geol. France*, 26, 221-243.
- 西田史朗・高橋 豊・竹村恵二・石田志朗・前田保夫 (1993) : 近畿地方へ東から飛んできた縄文時代後・晩期火山灰層の発見. 第四紀研究, 32, 129-138.
- 西村卓也・村上 亮 (2007) : 水準測量データによる 1930 年伊東沖群発地震のダイク貫入モデル. 火山, 52, 149-159.
- 岡田尚武 (1987) : 南部フォッサマグナの海成層に関する石灰質ナンノ化石の生層序と古環境, 化石, 43, 5-8.
- Okada, Y., and Yamamoto, E. (1991): Dike intrusion model for the 1989 seismovolcanic activity off Ito, central Japan. *J. Geophys. Res.*, 96, 10361-10376.
- Okada, Y., Yamamoto, E., and Ohkubo, T. (2000): Coswarm and preswarm crustal deformation in the eastern Izu Peninsula, central Japan. *J. Geophys. Res.*, 105, 681-692.
- 大久保太治・角 清愛・山田宮三・中村久由 (1983) : 伊豆半島の地下温度構造. 地調月報, 34, 383-412.
- 大町達夫・大塚 勇・年縄 巧 (1995) : 魚雷の擦痕から推定される 1930 年北伊豆地震の震源域での強震動特性. 土木学会論文集, 507, 219- 229.
- 小野晃司・角 清愛 (1970) : 5 万分の 1 地質図幅「稲取」および同説明書. 地質調査所.
- 大島章一・小坂丈予・工藤一嘉・坂上実 (1990) : 東伊豆沖手石海丘の海底噴火. 水路部研究報告, 26, 1-43.
- 小澤幸雄 (1989) : 伊東沖海底火山噴火に遭遇して. 地質ニュース, 422, 6-13.
- 沢村孝之助 (1955) : 5 万分の 1 地質図幅「修善寺」および説明書, 地質調査所.
- 沢村孝之助 (1955) : 7 万 5 千分の 1 地質図幅「沼津」および説明書, 地質調査所.
- 沢村孝之助・角 清愛・小野晃司・盛谷智之 (1970) : 5 万分の 1 地質図幅「下田」および説明書, 地質調査所.
- 嶋田 繁 (2000) : 伊豆半島, 天城カワゴ平火山の噴火と縄文時代後～晩期の古環境. 第四紀研究, 39, 151-164.
- 白尾元理 (1981) : 伊豆半島達磨火山周辺の地質, 地質学雑誌, 87, 641-655.
- 曾屋龍典・宇都浩三・山元孝広・須藤 茂・富樫茂子・中野 俊・阪口圭一・吉川清志・水野清秀・高田亮・小野晃司 (1989) : 1989 年 7 月の伊豆東方沖海底火山噴火と噴出物—正体を現した群発地震の黒幕—. 地質ニュース, 422, 14-26.
- 杉村 新 (1972) : 日本付近におけるプレートの境界. 科学, 42, 192-202.
- 角 清愛 (1958) : 5 万分の 1 地質図幅「神子元島」及び説明書. 地質調査所.

- 角 清愛・前田憲二郎 (1974) : 伊豆半島南部で発見されたアルカリカンラン石玄武岩, 地質学雑誌, 80, 137-140.
- Tada, T. and Hashimoto, M. (1991): Anomalous crustal deformation in the northeastern Izu Peninsula and its tectonic significance -tension crack model-. *J. Phys. Earth*, 39, 197-218.
- 田口敬子 (1993) : 伊豆半島の完新世における相対的海水準変化. 第四紀研究, 32, 13-29.
- 高木圭介・青池 寛・小山真人 (1993) : 15~10Ma 前後の伊豆・小笠原弧北端部で何が起こったか. 地学雑誌, 102, 252-263.
- 高橋正樹 (1986) : マグマ活動から見た南部フォッサマグナ地域の「衝突」テクトニクス, 月刊地球, 8, 586-591.
- 高橋正樹・菊地康次・漆畑忠之・荒牧重雄・葉室和親 (2002) : 東伊豆単成火山群玄武岩類の液相濃集元素組成. 日大文理自然科学研紀要, 37, 119-134.
- Tamura, Y., Koyama, M., and Fiske, R. S. (1991): Paleomagnetic evidence for hot pyroclastic debris flow in the shallow submarine Shirahama Group (upper Miocene-Pliocene), Japan. *J. Geophys. Res.*, 96, 21779-21787.
- 丹那断層発掘調査研究グループ (1983) : 丹那断層 (北伊豆・名賀地区) の発掘調査. 地震研究所彙報, 58, 797-830.
- 千葉とき子・斎藤靖二・木村典昭 (1982) : 伊豆半島蛇石火山熔岩の主成分化学組成. 国立科学博物館専報, no.15, 25-36.
- Tiba, T., and Aramaki, S. (1988): Petrochemistry of andesites from Jaishi Volcano, Izu Peninsula. *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo*, Ser. C, 14, 97-102.
- 土 隆一 (1984) : 駿河湾周辺の新第三系・第四系の構造とネオテクトニクス. 第四紀研究, 23, 155-164.
- 都司嘉宣 (1993) : 静岡県沼津市下香貫大朝神社 (潮留明神) の伝える嘉保 3 年 (1096) 東海地震の津波伝承. 歴史地震, no.9, 125-132.
- 津久井雅志・斎藤公一滝・林幸一郎 (2006) : 伊豆諸島における 9 世紀の活発な噴火活動について—テフラと歴史史料による層序の改訂—. 火山, 51, 327-338.
- 宇多高明・山本幸次 (1996) : 駿河湾に面する伊豆半島西岸に形成された砂嘴の地形特性 . 地形, 17, 3, 177- 192.
- Ukawa, M. (1991): Collision and fan-shaped compressional stress pattern around the Izu block at the northern edge of the Philippine Sea plate. *J. Geophys. Res.*, 96, 713-728.
- Yamada, E. (1977): Stratigraphy and geological structure of the Neogene formations, southeastern part of the Izu Peninsula, Japan. *Bull. Geol. Surv. Japan*, 28, 711-733.
- Yamazaki, H. (1992): Tectonics of a plate collision along the northern margin of Izu Peninsula, central Japan. *Bull. Geol. Survey. Japan*, 43, 603-657.

(4) ジオパークのマーケティング、コスト／ベネフィット分析に関する参考資料

国土交通省都市・地域整備局緑地課 (2007) : 改訂第 2 版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル. 60p.

土居英二(編)熱海市・静岡県・(財)静岡総合研究機構ほか (2009) : はじめよう観光地づくりの政策評価と統計分析, 226p.

農林水産省・国土交通省（2008）：四国圏域の総合交通ネットワーク及び地域資源を活用した地域振興策に関する調査報告書。

静岡県・観光部観光局観光政策課（2010）平成22年度静岡県における観光交流の動向，38p.

野方 宏（2012）観光の活性化と地域振興－伊豆の観光を考える－. 新評論，217p.

(5) 伊豆半島ジオパーク構想に関する主な研究発表と論文

小山真人・村越 真・上西智紀（2011）：ジオパークのガイド養成過程における大地の成り立ちの理解とその価値への気付き－伊豆半島在住の高校生に対するケーススタディー－. 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要.

村越 真・小山真人・上西智紀（2010）：ジオツアーによる大地の成り立ちの理解とその価値への気付き：伊豆半島の地元高校生を対象とした検証. 日本火山学会2010年秋季大会予稿集，1-A08.

植田基靖（2010）：伊豆半島ジオパーク構想. 日本第四紀学会2010年大会予稿集，PS-21.

村越真・小山真人・河合美保・鈴木雄介（2012）：ジオパークのガイド養成講座を通じた受講者の知識と意識の変容. 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要.

(6) 地形地質保全に関する参考資料

Berkes, F, Colding, J. and Folke, C.. (Eds). (2008). Navigating Social Ecological Systems: Building Resilience for Complexity and Change. Cambridge, UK. Cambridge University Press.

Gray, M. (2013). Geodiversity: Valuing and Conserving Abiotic Nature. New Jersey: Wiley Blackwell.

Gunderson, L., H., Allen, C, R. and Holling, C.S. (2009). Foundations of Ecological Resilience. Washington D.C.: Island Press.

Lucas, PHC. 1992. Protected Landscapes: A Guide for Policy Makers and Planners (The IUCN Conservation Library). New York: Springer.

Ostrom E., Dietz T., Dolsak N., Stern P. C., Stonich S., Weber, E. U. 2002. The Drama of the Commons. Washington, D.C.: National Academy Press.

宮内 泰介（編集）（2013）. なぜ環境保全はうまくいかないのか－現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性. 新泉社.

小磯 修二, 草苺 健, 関口 麻奈美. (2014). コモンズ 地域の再生と創造: 北からの共生の思想. 北海道大学出版会.

松下 和夫（著）. (2007). 環境ガバナンス論. 京都大学学術出版会.

浅野 耕太（著）. (2009). 自然資本の保全と評価（環境ガバナンス叢書）. ミネルヴァ書房.

塚本 良則（著）. (1998). 森林・水・土の保全－湿潤変動帯の水文地形学. 朝倉書店.